

校友会は日本李登輝友の会と一体化

李登輝學校日本校友会事務局 杉本 拓朗

靖國神社トイレ爆破事件の日

清々しい日本晴れとなった昨年十一月二十三日、李登輝學校日本校友会は靖國神社において第十回総会と、十一回目となる台湾出身戦歿者慰霊祭、林建良先生を講師に迎えての講演会を執り行いました。

この日は、あの由々しき「靖國神社トイレ爆破事件」が起きた日でした。爆破当時、数名の校友会会員がいましたが、皆さん異口同音に「音は一切聞いていない」とのことでしたが、総会終了後に爆弾処理専用車輛や警察犬を連れた警官が境内を歩き回る光景に接し、初めて「スワツ！一大事」と気づいた次第です。この不届き千万の事件

が起きて、被害者が出なかったのは英霊のご加護と思われました。

そのような外が騒がしい中、まず十時三十分より靖國會館において校友会総会を開催いたしました。

前年度の活動報告の中で特筆事項としてご紹介したいのが、齊藤眞博理事を中心に、台湾映画『KANO』を応援すべく「嘉義農林野球部応援隊」という組織が校友会有志が集って結成されたことです。この応援隊が『KANO』のチラシを一万三千枚ほど配布したのですが、その努力がロングラン上映に貢献したと考えております。

そして、今回総会の主な議案は校友会の位置づけを日本李登輝友の会の下部組織より、青年部と同様の部門と位

置づけることでした。

日本李登輝學校台湾研修団（略称…李登輝學校研修団）の卒業生で構成される校友会は現在、独自の会計機能を持つ日本李登輝友の会の下部組織と位置づけられていますが、渡邊丈夫理事長は、今後、校友会活動をよりいっそう活性化させるためには、金銭面や事務的な面で問題が出てくることは必定と考え、議案として提案しました。

総会では、好田良弘理事をはじめとする皆様方から肯定的なご意見を頂戴して活発な議論となり、全会一致で日本李登輝友の会と一体化することを可決しました。付随して、十一万円余の繰越金の取り扱いについても話し合わせ、台湾出身戦歿者を祀る靖國神社に全額奉納することを可決しました。

なお、この件は、本年三月初旬に開催された日本李登輝友の会の最高意思決定機関である常任役員会でも承認され、それを受けて開かれた先般三月下旬の理事会と総会において、校友会活

動に対する予算化が承認されました。日本李登輝友の会と一体化したからとは言え、校友会の同窓会としての機能などはそのままですので、どうぞご安心ください。

靖國神社本殿にて永代神楽祭

午後からは、靖國神社本殿にて台湾出身戦歿者を慰霊顕彰する永代神楽祭です。

校友会が主催する「台湾出身戦歿者慰霊祭」は平成十七年（二〇〇五年）十二月四日に第一回を執り行い、その後も続けられていましたが、皆様のご協賛により平成二十三年からは「永代神楽祭」となり、この年以降、毎年十一月二十三日を斎行日としており、今回は第五回目の永代神楽祭でした。

一時三十分より参集殿に集合し、永代神楽祭が始まるまで二階の控室で待機。校友会だけではなく、この日の永代神楽祭に参列されるご英霊の遺族の方々も続々といらつしやいました。

時間となり本殿へ。本殿は英霊に護られているためか、爆破事件で騒がしい外と違い、厳かな雰囲気かピンと張り詰めていました。外套がなくともそれほど寒くない中、まず祭主の神官が祝詞を奏し、祝詞の中でこの日の永代神楽祭で慰霊されるご祭神のお名前が次々と読み上げられました。次に、雅楽の調べと巫女による優雅な神楽舞が舞われ、最後に玉串拝礼で、私どもも渡邊理事長に合わせて拝礼、滞りなく永代神楽祭が終了しました。



講演で「総統選は蔡英文が当選し、立法院は民进党が過半数を取る」と断言された林建良先生（2015年11月23日、靖國會館）

林建良先生による講演会

引き続き、靖國會館に移動して講演会です。講師は昨年引き続き日本李登輝友の会常務理事の林建良先生^{りんけんりょう}で、台湾の総統選と立法委員選が一ヵ月半後に迫っていましたので、演題は「台湾総統・立法委員選挙の展望」。

林先生がマイクを手にした途端「総統選は蔡英文が当選し、立法院は民进党が過半数を取ります。終わり！」と非常に単純明快に話して一気に場を盛り上げ、参加者の質問に答えるスタイルに変更。

国民党の凋落や若者世代についてなど様々な質問に対して、最新の現地情報と優れた分析力で回答していただきました。しかし、時間がなくなり、引き続き開いた直会の席でも、林先生に数々の質問が投げかけられ、それら一つ一つに丁寧に答えられて、あっという間に直会も終わり、今年の慰霊祭も無事に終了いたしました。